

水戸市市民生活課及び水戸市住みよいまちづくり推進協議会役員向けに行った政策提案資料
(2021年2月2日、於水戸市役所)

自治会・町内会の現状と 解決策の提言

茨城大学人文社会科学部
地方行政論ゼミナール3年
坂入瑞規 関春樹 杉浦良真

目次

1. 全国的にみた自治会・町内会の現状
2. ヒアリング調査の実施
3. 解決案
 1. 自治会への参加と加入を別に考える
 2. 大学生をターゲットに

1. 全国的にみた自治会・町内会の 現状

自治会・町内会をめぐる問題

- 担い手がいない（加入率の低下）ことに対する「解決策」
 - 「担い手を増やす作戦」がある
 - この作戦には重大な欠陥、罣がある
 - 町内会の仕事が増えすぎていること
 - 仕事の見直しが必要

自治会・町内会をめぐる問題

- 「フリーライダー（ただ乗り）問題」

※町内会で見られる例

→ごみ出し問題、防犯灯など

- なぜフリーライダーへの批判が生まれるのか

→「義務を逃れている、ただ乗りしているのではないか」という考えから生まれる

その他の主な問題

- ・ 新規の住民が加入しない
- ・ 活動がマンネリ化
- ・ 活動にまったく参加しない
- ・ 高齢化や過疎化で組織維持が困難

(日高昭夫 2008 「基礎自治体と自治会・町内会等の関係に関する全国自治体調査」)

解決策の方向（町内会の仕事）

- 仕事内容の見直し
 - 仕事を全部町内会でやるには限界がある
 - できるものはプラスアルファだと割り切る
- 町内会にしかできないこと
 - コミュニティ意識を育てること
 - 行政や企業にはできないこと



解決策の方向（行政に求められること）

- ・ 町内会が担い手不足に悩む
 - ・ 住民も負担の多さに悩む
- 最大の原因は、行政
- ・ 行政の責任はどこにあるか考えるべき
 - ・ 「やりたくない」という人や地域が出ることに対応できる制度設計を

解決策の方向



- 他にも、連合体との関係や住民一人一人の意識という視点から解決策が考えられるとされるが…

→これらの解決策がうまく行われていないことが多い

2. ヒアリング調査の実施

水戸市の町内会の現状について

住みよいまちづくり推進協議会の方にお話を伺った

水戸市の町内会の現状①

若者の加入率が低い

理由としては…

- ・ 仕事が忙しい
- ・ 同世代が少なく入りにくい
- ・ きっかけがない

水戸市の町内会の現状①

- 渡里地区などは学生の一人暮らしが集中
- 大学生を上手く巻き込みたい！

水戸市の町内会の現状②

加入者の高齢化

それによって

仕事が出来ない

迷惑をかけてしまう などで退会を申し出る人が

町内会との関わりが減ってしまう！

水戸市の町内会の現状③

実際に一般会員が行う仕事は

- ・ 回覧板を回す
- ・ ゴミ捨て場の清掃 など

負担する会費も数百円



過度な負担のイメージを持たれている？

3. 解決案

- ①フリーライダー問題
- ②加入率低下
- ③高齢化
- ④大学生の関わりが薄い

- ①フリーライダー問題
- ②加入率低下
- ③高齢化
- ④大学生の関わりが薄い

準会員制度を設け、自治会への加入と活動への参加を別に考える

◎準会員制度

会費を払うのみ

アパート等は家賃の一部もしくは共益費に組み込む

役員にはならず、イベントへの参加は可

加入者とみなす



加入率アップへ

・ 会費を払うのみ

自治会に入らない理由

→ 居住期間が短いため

→ とはいえ享受するものが無いということはない

フリーライダーを少しでも減らす



必要最低限のコストのみ払ってもらおう

例：街灯の設置

※社協の会費、赤十字費は求めない

- ・ 家賃や共益費の一部に組み込む

現金でお金を払うことに抵抗がある人もいる

→別のものでカモフラージュすればハードルが下がる！？

例：月50000円 + 3000円の共益費（内100円は自治会費）

不動産会社、大家の協力は不可欠だが、学生などの短期居住者に対してかなり有効な手だと考えられる

- ・ 役員にはならず、イベントへの参加は可

地域での交流にはイベントでの開放性が必要

自治会の活動を知ってもらうきっかけになる

↳ 加入の可能性

イベントでの増収が見込める

→さらなるイベントへ（好循環）

自治会の印象up

準会員制度

— メリット —

統計上での自治会加入率アップ
フリーライダーの減少
金銭面で自治会の活動、存続が安定

— デメリット —

払ってもらおう会費の線引きが難しい
実態として自治会の活動、存続が不安定

- ①フリーライダー問題
- ②加入率低下
- ③高齢化
- ④大学生の関わりが薄い

2. 大学生をターゲットに

若者と町内会の関わりが希薄化

①町内会に割く時間がない

②きっかけがない

③同年代がいないため入りにくい

準会員制度

大学生をターゲットに

①学生を惹きつける活動

②学生に届く広報

①学生を惹きつける活動

大学生は普段何してる？

案1 学業に注目

案2 サークル活動や部活に注目

案1 大学の授業と協力

行政や地域活動などについて学ぶ
授業も

そこで

大学と授業と連携して地域活動を



案1 大学の授業と協力

例

「地域活動特講」

地域の市民センターと協力

学生が地域を盛り上げるにはどんな活動が良いか話し合い、実際に実行

案2 サークルと協力

茨大には地域活動の企画・参加が主活動のサークルが複数存在

そのようなサークルと協力して

地域の祭りを盛り上げたり

新しい行事を開催

案2 サークルと協力

茨大には音楽系のサークルも多数
そのようなサークルと協力！

ライブや演奏会などを実施！

・地域の児童や中高生の部活なども参加する行事に！

案2 サークルと協力

スポーツサークルも多数
そのようなサークルと協力して

例

- ・メジャースポーツなら
〇〇地区サッカー大会
- ・マイナースポーツなら
〇〇地区卓球体験会

②学生に届く広報

①SNS

→発信元に拡散力がないと難しい

②広報誌

→町内会に加入していない人には届きにくい

②学生に届く広報

③スーパーなどでチラシ・ポスターで宣伝

→必ず立ち寄る場所 目につきやすい

④大学を通して広報

→大学にてポスターなどで宣伝

参考文献

- ・ 紙谷高雪. 2017. 『どこまでやるか、町内会』 ポプラ新書.
- ・ 日高昭夫. 2018. 『基礎的自治体と町内会自治体－「行政協力制度」の歴史・現状・行方－』 春風社.